

学校教育目標	「みずから生きる とともに生きる 日吉台の子」 ○すすんで学習し、自らの力で課題解決しようとする子を育てます。(知) ○自分も友達も大切に、思いやりのある子を育てます。(徳) ○日々の生活を見つめ、健やかな心と体をつくらうとする子を育てます。(体) ○まちを大切に、まちのためにできることを実践する子を育てます。(公) ○様々な人とのコミュニケーションを通して、社会への視野を広げようとする子を育てます。(開)				
	学校概要	創立 149 周年	学校長 吉井 宣明	副校長 澤 勉	2 学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 4
児童生徒数: 553 人		主な関係校: 日吉台中学校 日吉南小学校 矢上小学校 北綱島小学校 箕輪小学校			

<p style="text-align: center;">教育課程全体で 育成を目指す資質・能力</p> <p>・変化の多い社会に柔軟に対応し、多様な人々を協働しながら自己表現する力 ・知識や経験を活かし、思考力判断力を働かせながら課題解決する力 ・自分を律する態度と他者への思いやりの気持ち</p>	<p style="text-align: center;">日吉台中 ブロック</p> <p>日吉台中学校 矢上小学校 北綱島小学校 日吉南小学校 箕輪小学校</p>	<p style="text-align: center;">小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組</p> <p style="text-align: center;">自分の考えを持ち、対話を通して、 よりよく問題解決を図る力</p> <p>・互いの考えを伝え合う活動を多く取り入れた授業展開、年間3回の小中交流授業研を通し、共通テーマの下、各学校で実践し参観しあう。 ・個に応じた支援、特別支援教育を充実させるべく、教師側の研修を重ねる。 ・小中のつながりを意識し、自己有用感を高める、「わかった」「楽しい」と感じさせる授業の実践に取り組む。</p>
---	---	---

<p style="text-align: center;">中期 取組 目標</p>	<p>○身につけさせたい資質・能力を全職員で共有し、まちと協働して子どものよさを高める学校を目指します。 ・自分も周りの人も大切にできる、思いやりのある子を育てます。 ・子どもが楽しく、自ら学ぼうとする主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりを進めます。 ・家庭、地域との連携をさらに深め、地域の力を学校教育に活用すると共に、まちのためにできることを実践する子を育てます。 ・教職員が相互に啓発・連携できる、効率的で働きやすい職場・職員組織を目指します。</p>
--	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①児童が主体的・対話的に取り組むことができる授業展開や、発問を研修し、児童の思考・判断・表現の力を伸ばす。②教科・領域横断的な学習を進め、課題設定、解決の経験ができる指導を行う。③ICTを活用した、児童の「個別最適な学び」や、より広い社会との係りを含めた「協働的な学び」を目指す。
担当	学習指導部	
徳	道徳教育	①道徳の授業を要とした道徳教育で、自分を律する態度と他者への思いやりを育む。②身の回りで自分たちを支えてくれる人々への感謝の気持ちを持たせると共に、まちの一員である意識を高め、さらに住みやすいまちを創るという意識を育てる。
担当	学習指導部	
体	健康教育	①栄養士を中心に、食育への理解をさらに深め、給食の時間を活用して、栄養と健康の関係を理解させ、自らの体を健やかに保とうとする意識を育てる。②新体力テストの結果を家庭と共有し、児童が目標をもって体力増進に取り組めるようにする。③一校一実践に児童が主体的に取り組めるようにする。
担当	保健指導部	
公 開	地域学校 協働活動	①学校・地域コーディネーターを中心に、地域の力をより一層活用し地域と共に子どもをよりよく育む。②学校だよりや、ホームページで学校教育について発信する。③学校づくり懇話会を発展させ、学校運営協議会の在り方について考え、実現に向けて中学校ブロックで検討していく。
担当	児童指導部	
いじめへの対応		①日吉台小学校いじめ防止基本方針を全職員が理解し、「しない、させない、許さない」学校を目指す。②児童の小さな変化に気付き、相談しやすい環境を作る。定期実施の対策委員会で、感度の高いいじめ認知を行う。③誰もが安心して生活できる学校を目指し、児童の主体的行動で自浄作用を高める。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①スキル研を中心に、主に経験の浅い教員の授業力、対応力を高められるよう、主任等が適時指導助言を行う。②校務分掌内の作業をシステム化し、協働や引継ぎがしやすく、負担が軽減される工夫をする。③経験者と初任者を分掌内に適宜配置し、OJTを通して経験を高める。
担当	教務部・スキル研	
特別支援教育		①児童の実態を把握し、全職員が個に応じた支援の共有を心掛ける。②合理的配慮について研修を深め、児童に対する具体的支援の最適な方法について関係機関とも連携しながら確立していく。③個別支援学級と一般級の連携を密にし、担任も相互交流し児童理解に努める。
担当	児童指導部	
担当		
担当		
担当		